



サイジャーナル

月刊
4-3-4
第462号

日本サイ科学会 令和4年3月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎ 090-9196-2963	北 陸 〒920-0031 金沢市広岡2-7-25 プレミスト金沢駅西口1 804号 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 2034	関 西 〒545-0034 大阪市阿倍野区 阿倍野元町1-2 和 田 高 幸 ☎ 06 (6624) 0569・FAX 06 (6624) 5061	九 州 〒814-0015 福岡市早良区 室見1-1-3-2F 伽 羅 ☎ 070 (7782) 6216・FAX 092 (846) 8200
---	--	--	---	---

四月本部例会のお知らせ

生命現象発生の数理仮説
(命の働きは混沌から現れる)

講師 浪平 博人氏

(日本サイ科学会会長)

日時 令和4年4月17日(日)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ7階701会議室
交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員二千円(当日入会可)
一般三千円 学生一千円

この世には2つの異なった性質
の現象があります。物理現象と生
命現象です。

その根本的な差異は、

・物理現象(たとえば水の流れ、
温度の拡散)では変化が秩序か
ら一様な方向に向かう

・生命現象では変化が一様から秩
序に向かう

という現象変化の方向です。

◎事務局からのお知らせ

※今月は年度替わりですので、「会
費納入のお願い」の通知と郵便振
替用紙が同封されています。いろ
いろ出費の多い時期で恐縮ですが、
日本サイ科学会の活動は皆様の年
会費で支えられておりますので、
早めのお振り込みをよろしくお願
い致します。

※また、日本サイ科学会は近年、
会計が厳しくなっておりますので、
少しでも御寄付が戴きましたら、
助かります。恐縮ですが御寄付を
していただける方は、同封の郵便
振替用紙の該当欄にその金額を記
入し、年会費に追加して、お振り
込みをお願い致します。

今回は、すべての初めに本然と
して存在するものとして「混沌」
があるとしてこの混沌の変化の内
容に着目し、これより秩序方向に
働く生命現象の発生原理を導き出
すという一つの数理仮説を提示し
ます。

そして、生命の特徴である自ら
を生み出す働きを再帰表現形式で

今月号の記事

- ◎ 四月本部例会のお知らせ
- ◎ 事務局からのお知らせ
- ◎ 十月第30回全国大会発表者募集
- ◎ 関西日本サイ科学会3月研究集
会のお知らせ
- ◎ 第45回宇宙生命研究分科会予告
第12回スピリチュアル研究分科
会のお知らせ
- ◎ 令和2年9月本部例会の報告I
- ◎ 第四六三回関西サイ科学会報告
- ◎ 印度旅行のみやげ話II(サイの
広場第1号アーカイブ)
- ◎ 念写研究における意識と物質
◎ 霊能力について

表現し、そのような表現法が創り
出すものが生命の働きに似たもの
であることを実証的に示します。

※浪平博人氏は昨年の創立45周年
記念大会の会員発表「来る時代の
激震の本質および対応としての教
育改革」において、参加者投票に
より最優秀賞に選ばれたのです
が、パソコンによる動画像を駆使し
て、分かりやすいお話をされます
ので、会員の皆様もご友人、知人
もお誘いして是非ご参加願います。

◎浪平博人氏のプロフィール
 博士(工学) 技術士(情報処理)
 日本サイ科学会会長
 略歴

広島大学工学部卒業。ブリヂストン入社。約21年間勤務、コンピュータ部にて、技術計算、オペレーターシヨンズ・リサーチ、需要予測、在庫問題に従事、生産システム部にて、物流システム、生産システムの設計などに従事。
 産能短期大学教授

1999年に、大妻女子大学社会情報学部教授就任、統計学、数理統計学、C言語、情報処理演習、管理工学、経営情報システム論等を担当

2012年大妻女子大学社会情報学部教授定年退職、退職後動視化技術研究所代表として活動し現在。

論理の視覚化・大妻女子大学在職中から論理の視覚化に力を注ぎ、学校教育における算数・数学の理解度を劇的に向上させる「コンピュータによる学習内容の動的視覚化(コンテンツ化)」に成功。動的視覚化技術の普及に努めるとともに、独自の創造的思考法(感知力)の開発・展開を図っている。

著書・アルゴリズム、動的視覚化(数学)、創造性開発、関係多数オンライン大学校開設・日本創造理科大学校

※3月の本部例会はお休みとなります。

2022年日本サイ科学会 第30回全国大会発表募集

◆ ◆
 毎年の重要な行事である全国大会が、今年も10月に開催されます。会員の研究発表+シンポジウムが予定されておりますが、会員の皆様には積極的な発表ご参加を期待しております。

今年のシンポジウムのテーマは「あの世とサイ」ということで、宗教や心霊科学にとって主要なテーマとなります。死後の世界について、サイ科学的な観点からのアプローチと解釈を検討していく所存です。

会員の研究発表では、シンポジウムのテーマに関してでも、そうでなくてもOKであり、これまで

の研究での新しい発見、現在もしくは近いうちにデータ取りをしてまとめたいこと、偶発現象(UFO、心霊現象等)の目撃と原因の推測・解明、様々なサイ現象の仮説(理論)など「サイ」に関連することなら何でも結構ですので、ご自分の考えや研究成果をまとめて、発表して頂きたいと存じます。

◆ ◆
 7月末までにタイトルと簡単な内容(200字くらい)をメール、またはFAX、ハガキでお送りいただき、一応審査させていただきます。通りましたら8月31日までに原稿ファイルをメール添付等で戴きたいと思います。原稿の書式は後でお知らせ致します。

※全国大会での発表はできないが、論文集「サイ科学」の資料として、発表したい原稿も募集致します。論文集「サイ科学2021」末頁の「サイ科学の投稿審査規定」をよく読んで、応募願います。

関西日本サイ科学会 三月研究集会のお知らせ

脳波と超能力〜ESPやPK現象を脳波で説明する〜

講師 志賀 一雅氏
 (脳力開発研究所長)

日時 令和4年3月19日(土)

13:30〜17:00(13:00開場)

会場 阿倍王子神社 参集殿(2F)

・ 阪堺電車上町線「東天下茶屋」
 駅下車徒歩5分

・ 大阪メトロ御堂筋線「昭和町」
 駅から徒歩15分

・ まつむし音楽堂から阿倍野筋沿いに徒歩10分

会費 会員及び同伴の家族二千円
 一般三千円 学生一千円

懇親会(会費3500円)

※懇親会への参加は、当日受付にてお申し出ください。

※参加のお申込みは、関西日本サイ科学会公式サイト「参加予約」フォームからお願い致します。

す。

<http://iaides.jp/kps/ken.html#ken463>

脳波と超能力について、実際の計測データをもとに講演していただきます。講師は脳波測定器を開発、メンタルトレーニングにおいても好成績を収める志賀一雅氏。ぜひおいでください。

講演内容

ESPやPK現象を發揮している人の脳波を測ると、複雑な信号の中に「8Hzのスローアルファ波や13.6Hzのファストアルファ波のスペクトルが目立ちます。もちろん10Hz中心のミッドアルファ波も観察されますが、なぜかESPやPK現象を引き起こしているときには10Hzは抑制されているようです。

被験者は主に清田益章氏ですが、確認の意味ではかのエスパーにも協力いただいています。

講演では前半は実際に計測した脳波と分析した結果を報告します。後半は計測された脳波とバンドレン帯からのプラズマ振動で発生する電磁波との関わりについて論じます。ロシアのトムスクにある宇宙監視センターから報告されている空間の電磁波と脳波とがそ

っくりなのでなぜかを論じ、最後に免疫力向上のためのトレーニングを紹介します。

結果として、空間の電磁波と共鳴するようになります。ESPやPKが發揮できるかもしれません。(講師記)

志賀一雅氏のプロフィール
脳力開発研究所 相談役

日本において最初に脳波の「アルファ波」を3種類に分け、ファストα波、ミッドα波、スローα波と質的な違いを提唱した。

1961年電気通信大学卒業後、松下技研に勤務。東京大学工学部計数工学科研究員を兼務しながら、脳波研究に没頭。1983年脳力開発研究所設立。パソコンを利用した脳波分析装置を開発し、大学や企業の研究所へ提供。アルファ波を指標としたメンタルトレーニング指導で、日本航空、日本IBM、NTTなど、大手企業の脳力開発研修において高い評価を得る。2008～2009年文部科学省より委託を受け「専門学校教育職員、学生のためのメンタルヘルス・脳力開発プログラム」を開発。その後、学校や企業に向けての

「メンタルウェルネストレーニング推進プロジェクト」を総合監修。

著書は「全身の疲れがスッキリ取れる本(三笠書房)」など多数。2011年3月に米国EHS(米国保険社会福祉省)大統領諮問機関より、長年にわたる脳波とメンタルトレーニングの研究、実践に対しGOLDWARD(金賞)を授与される。2015年にはステージ3の大腸がんを克服し現在もさまざまな研究と講演活動を実施している。

第45回宇宙生命研究分科会

日時 令和4年3月26日(土)

午前10時～午後4時30分

会場 北とびあ9階901会議室
交通 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

参加費 一般 二千元

サイ・サトル会員、学生、60歳以上 一千元

宇宙人0円(但し受付の要認可)

※事前参加申し込みは不要です。
※当日会場にて直接、現金にて参加費をお支払い下さい。

第4回ソクラテスシンポジウム

テーマ「アイデンティティー」

サイボット社会(サイボーグ、ロボットとヒトの共生社会)に加えて、替玉、ゴム人間、クローンが蔓延する中で、自分が自分らしく自分の連続性を保つにはどうしたらいいのか? 取り敢えず考えてみよう。

あなたはホントにあなたなのか? あなたに似せたゴムニダではないのか? いや、レプクロじやあ、ないのか? 自分ってホントのわたしですか?

(世話役 阿久津淳)

第12回スピリチュアル研究分科会

日時 令和4年5月29日(日)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ9階902号室
交通 JR京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤
羽寄り)の階段を下り改札
口を出て見える高層ビル

会費 会員一千元(当日入会可)

一般二千元 学生一千元

*当日会場にて直接、現金にてお
支払い下さい。

テーマ「特異能力の検証と開発法」

講師 小林 永周氏

講演内容

古今東西、預言者や超能力者、
シャーマン等、いわゆる霊視、霊
聴、霊言や予知、予言などを行う
特異能力者はピンからキリまで存
在しています。

かつて私はテレビ局の制作現場
に携わって、内外の能力者330
余名を取材、各人の能力を確か
め、実験、検証を試みて60年余、
このメカニズムの究明に取り組ん
できました。

本来、誰でも備わっているとさ
れる潜在的感性を蘇らせて、能力
開発法の一つを披露、実践、併せ
てインテリ能力者に騙されないた

めの心得についてお話ししたいと思
っています。



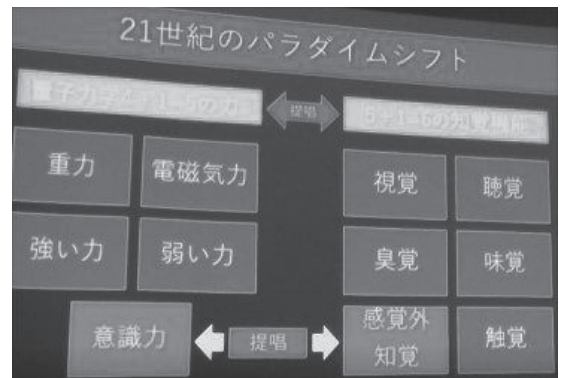
令和2年9月本部例会報告I

多能性幹意識の誘導による
超能力の覚醒とシーター波
の脳波(iPT意識)

講師 山崎 正男氏

様々な超能力を覚醒するシーター波

(超能力)は、予知、過去知、透
視、テレパシー、体外離脱、テレ
ポーテイション、心靈手術、遠隔
気功、気功麻酔、物質化現象、ア
ブダクションなど多種多様なサイ
現象がある。しかし、長年の研究
生活から、人間は五感の他に六番
目の知覚機能を持っていることを
発見した。また「意識」は、肉体
及びさまざまな物質に伝播し影響
を与えることを発見した。したが
って「量子力学」でいう「四つの
力」に【意識力】を加え、「五つの
力」の存在を提唱する。



(超能力)は、禅の瞑想などで
意識を「空」にすれば、シーター波
の脳波になって覚醒する。釈迦牟
尼ブッタは2500年前、瞑想
により「六神通」(超能力)が覚醒
し、予知や透視、離脱などさまざ
まなビジョンを見た。そのビジョ
ンを悟りとして、後世に伝えた。
したがって、釈迦牟尼ブッタは超
能力の第一人者だったのである。
瞑想で「無の意識」になり「意
識の初期化」をすれば「多能性幹
意識」から、さまざまな超能力が
覚醒する。

ライン博士と感覚外知覚(超能力)
「超能力」の言語は、1935
年アメリカ・デューク大学に超心
理学研究所を設立した、J・B・
ライン教授により、一般化された言
葉である。ライン教授は1934
年、ESP(超能力)を「明らか
に通常の感覚以外のチャンネルを
通じて受け取る感知」だとしてい
る。ライン教授が現代心理学を確
立して以来、五感を超える【感覚
外知覚】(超能力)の存在が注目さ
れるようになる。しかしながら多
くの研究者が超能力の解明に取り
組んできたが、いまだ明確な答え
は出されていない。その背景にあ
るのは科学的根拠に基づくエビデ
ンスの欠如であり、そのコンセン
サスが得られないからである。
著者は無神論者であるが、いつ
しか釈迦の仏像に興味を持つよう
になり、幼少のころから神社仏閣
に好んで足を運んでいた。穏やか
な表情の仏像の顔を眺めているだ
けで安らいだ。大人になると全国
の神社仏閣を見て回ると全国
り、空海の金剛峯寺、道元の永平
寺などにも足を運んだ。仏とは、
悟りとは、後光とは、額にあるホ
タクロの意味は、宇宙の果ては、死

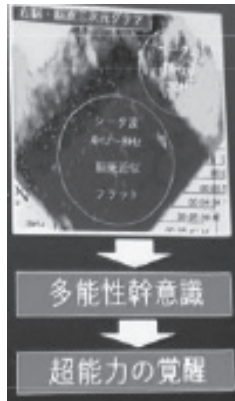
後の世界はどうなっているのか、などと自問自答し哲学するようになる。

その解を求める長い人生の旅の末、共時性のごとく「五」と「六」の数字が脳裏に浮かんだ。量子力学の「四つの力」に「意識力」を加えて「五つの力」とし、「五つの知覚」に「感覚外知覚」を加えて「六つの知覚」とすれば、様々なサイ現象（超能力）は解明できるのではないか、とシータ波で閃いた。

- ・シータ波を誘導する多様な要素
- ・睡眠障害者はシータ(θ)波になる
- ・ナルコレプシー患者はシータ波になる
- ・カタプレキシー患者はシータ波になる
- ・脳神経系に異常があるとシータ波になる
- ・禅・ヨガ・気功の瞑想でシータ波になる
- ・左右の耳から特定の周波数の音を流すとシータ波になる
- ・4〜5Hzの高振幅のシータ波は3才ころに最も顕著になる
- ・生死を伴う危険を感じるときにシータ波になる

- ・特定の薬物を摂取するとシータ波になる
- ・幻覚キノコを食すればシータ波になる
- ・IQが140以上あればシータ波になる
- ・宇宙船の搭乗員はシータ波になる

- ・レム睡眠時にシータ波になる
- ・臨死体験時にシータ波になる
- ・死の瞬間にシータ波になる



右上図は右脳の脳波を3次元化したグラフである。シータ波になるとグラフのすべての領域がフラットになる。脳の活動がすべて停止しているようなグラフになる。このような脳波になると多能性幹意識になり超能力が覚醒する。

シータ波は多様な能力を顕現する
 ・シータ波になると六番目の知覚機能【感覚外知覚】、【超能力】

が覚醒する

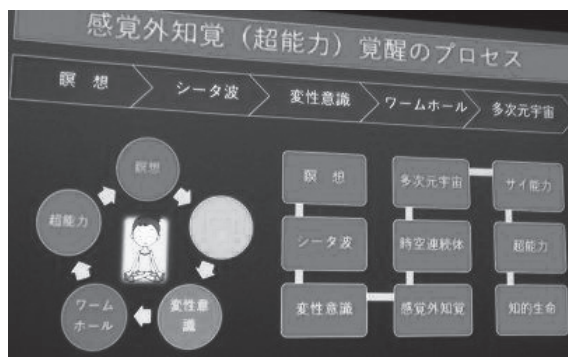
- ・シータ波になるとパラレルワールド(平行宇宙)に繋がる
- ・シータ波になると全ての感覚器官が鋭敏となり頭脳明晰になる
- ・シータ波になると「時空連続体」(ワームホール)の紫のトンネルが現れる

- ・シータ波になると「時空連続体」の中で、一年間の時間が三百分の一秒になる
- ・シータ波になると「時空連続体」の中で、時間を戻すことも進めることもできる
- ・シータ波になると動的物体がスローモーションに見える
- ・シータ波になると体外離脱し、傷害・疾病の苦痛から解放される

- ・インドの釈迦牟尼ブツタはシータ波の脳波で悟りを開いて六神通(超能力)を得る
- ・死の瞬間シータ波になり、体外離脱し宇宙の真理を悟る
- ・肉体は死滅しても意識は異次元空間で永遠に生きられる
- ・シータ波は人間の知能指数を驚異的に高め、政治、経済、教育、文化、芸術、医学、科学、スポーツ、音楽、農林水産など、あらゆる分野で革新的進化をもたらす。それは人類のイノベーションである

あらゆる分野で革新的進化をもたらす。それは人類のイノベーションである

感覚外知覚(超能力)覚醒のプロセス



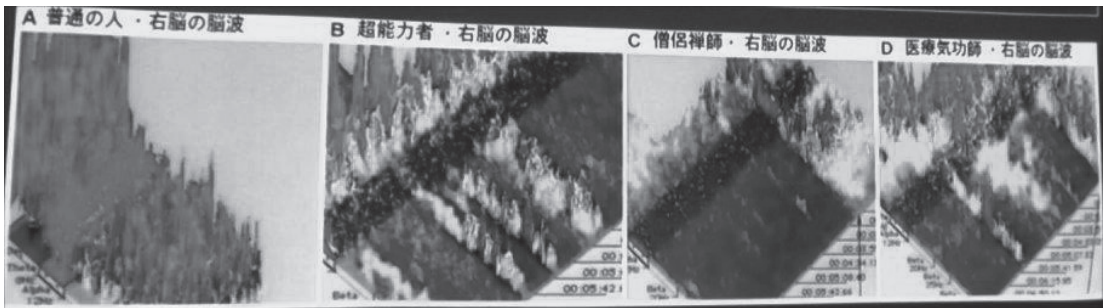
深い冥想に入るとシータ波になる。すると意識があるようなでないような変性意識になる。すると閉じている目の中に紫色のトンネルが現れる。時空連続体ともワームホールとも呼ばれるトンネルである。その紫色のトンネルの中に意識を導入させる。するとものすごい

いスピードで突き進む。トンネルの中は時空が歪んでいるので、曲がりくねっている。しばらくすると多次元宇宙につながる。もしくは目的意識の映像が浮かんでくる。

超能力者・禅師・気功師は同じ脳波である

東京電機大学の町好雄教授は脳波基礎研究の第一人者である。超能力者、気功師、僧侶（遠隔治療可能）、ユタ・イタコ（霊能者）などの脳波を測定している。その膨大なデータを分析して、さまざまな学会で発表し、多くの賞を受賞している。

町教授は、「超能力者、僧侶、気功師の脳波は類似していて、細かい点で違いはみられるが、基本的には同じ脳波である」と、同席した学会で発表されている。町教授の脳波測定器は著者と同じものであり、再現性は顕著に認められる。したがって超能力、遠隔気功、霊能力などのサイ現象には【意識力】が介入し、六番目の知覚【感覚外知覚】が覚醒しているのである。（町好雄 1940～2019）



あらゆる能力が覚醒する変性意識
深い瞑想に入るとシータ波になる。すると意識があるようでないような変性意識になる。変性意識になると感覚外知覚、覚醒のプロセスにより様々な能力が覚醒する。その能力は予知、透視、テレパシー、念力、体外離脱、瞬間移動、心霊手術、アブダクション、気功麻酔、時間短縮、物質化現象、予言、物質の縮小、オーブ現象、六神通、過去知、時空連続体、スローモーション、UFO遭遇、超聴力、遠隔治療、蘇生、ひらめき、悟りなどがある。

両生類のエリオプス・爬虫類のディアデクテス



両生類のエリオプスは山椒魚のような生物、三分の一が頭で、脳の長さは10センチほどで極端に小さい。爬虫類のディアデクテスは

ワニに似た生物で、とがった頭と水掻きを持つている。両生類から爬虫類に進化する途中の動物と考えられている。

2億9千万年前のエリオプスとディアデクテスは、きわめて特徴的な脳を持つている。頭蓋骨は両目の間の奥に小さな穴が開いており、その穴に脳の突起部がすっぽりはまる構造になっている。この脳の突起部は第三の目であり、進化の過程で脳の一部の細胞が直接外部の光を知覚できるようになった。

眉間の奥にある人間の松果体は、この脳の機能を継承していて、サイ能力（超能力）の覚醒時に一瞬だけピカッと光る閃光を見る。しかし閃光は眼の網膜を介さず、松果体の光受容体細胞が直接知覚するので眩しくは感じない。これは通常の感覚以外の【感覚外知覚】を通じて受け取る知覚である。

睡眠と夢と感覚外知覚（超能力）

夢は睡眠中の大脳の覚醒であり、夢と幻覚は対象なき知覚という点では同じである。ただ夢の場合、夢を大脳に創出させる脳幹の活動は正常であるが、幻覚の場合

は脳幹の働きが異常になる。しかし幻覚には脳幹網様体賦活系理論が働いている。睡眠と夢は切っても切れない関係にあり、夢はレム睡眠でも徐波睡眠(ノンレム)でも見るが、荒唐無稽な夢はレム睡眠に限られる。

それはレム睡眠中にシータ波になり【感覚外知覚】が覚醒し、不可思議なビジョンを見るからである。そのビジョンには、予知夢や体外離脱などが含まれる。レム睡眠は鳥類以上の脊椎動物に多い現象で、魚類のサメや爬虫類のトカゲなどは面白い夢は見ないらしい。ひとは、たとえ7時間の睡眠をとっても複雑な睡眠過程から、60分ほどはウトウトとしたレム睡眠である。

したがってひとは睡眠中にシータ波になり【感覚外知覚】が覚醒し、予知や体外離脱など不可思議なビジョンをとときどき見ているのである。しかしながら目覚めると忘れてしまっている。また金縛りは、レム睡眠時に体験する現象で、体は深い眠りで意識は浅い眠りの時に見る。怖い夢を見た直後に体を動かそうとしても動かないので、ほとんどのひとは金縛りに

あったという。しかし金縛りは霊的な現象ではないのである。

グレー博士とシータ波の脳波

シータ波の分類は1943年、イギリスの大腦生理学者グレー・ウォルターによる。グレー博士がシータ波を提唱する前は、ドイツのベルガーの手により、デルタ、アルファ、ベータの三つの脳波に分類されていた。グレー博士は脳幹の最上位にある視床に着目した。脳幹のなかで視床だけは左右の脳が融合していない。これは動物の脳の急激な進化に、脳の融合・合体が追いついていないことを意味する。



視床が左右に分かれているので、その上部にある大腦も左脳、右脳に分かれている。脳が融合できず左右に分裂していることは、人間の精神の根源的意味があつて、人間は単体近似で真実にせまり、進

歩・発展をとげてきた。視床とは「眼からの視神経が通る床」という意味であり、人間の感覚情報の大部分は、この視床を通る神経によって伝えられる。

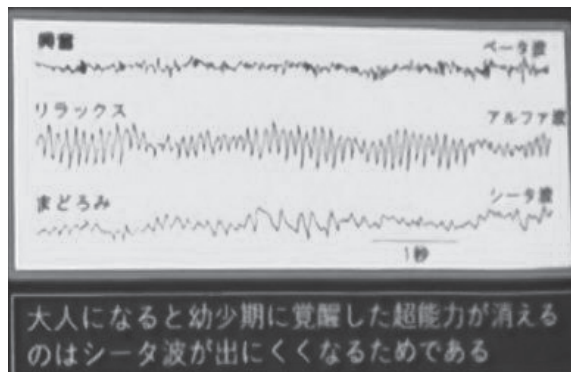
大腦、小脳、脳幹の交差点に位置する視床は「情報の中継センター」ともいうべき役割を果たしている重要な脳である。視床を英語で thalamus といい、そこから Theta (シータ) 波と命名された。1970年代になると子供に対するシータ波の研究が多数報告されるようになる。シータ波は【感覚外知覚】を喚起し、さまざまなサイ現象を覚醒する重要な脳波である。

幼児期のシータ波と感覚外知覚

入眠期過同期生シータ波、1〜3歳の幼児期は、4〜5Hzの高振幅のシータ波が両側前頭部、中心部優位で全誘導にわたって数秒間の持続で突発性に出現する。生後4ヶ月ごろより出現し、幼児期の1〜3歳で最も顕著になる。

11歳以後は減少し次第に成人の入眠期パターンになる。幼児期は、人としての基礎的発達の目ざましい時期で、大腦神経は80%が完成

される。運動面では基本的な体の動きを2歳までに達成し、速度、柔軟性、局所的な動きが発達する。



精神面は認知、記憶が著しく発達し、表象作用が始り、外界の認知が深まる。また直観的作用が可能になる。したがって、音楽、芸術、スポーツなどの英才教育は、シータ波が顕著になる3歳頃から始めると天才的才能が培われる。このように幼児期の能力の覚醒には、シータ波の生理学的エビデンスがある。「三つ子の魂百までも」

の諺はここからきている。

睡眠の脳波と感覚外知覚(超能力)の覚醒

第一段階の睡眠は、アルファ波は消えて不規則な振幅の波が現れ、ウトウトと眠りかけた状態。

第二段階の睡眠は、頭蓋頂鋭波のシータ波に加えアルファ波と12Hz～14Hzの紡錘波が断続的に現れ、寝息を立てるくらいの睡眠。

第三段階の睡眠は、深い眠りのデルター波(0.5Hz～4Hz)が脳全体の20%～50%を占める。

第四段階の睡眠は、デルター波が脳全体の50%以上を占め熟睡の状態をいい、健常者の睡眠は第一段階から徐々に深い眠りの第四段階に進行する。(続く)

講師 水口 清一氏

竹田 稔幸氏

日時 令和4年1月15日(土)
会場 阿倍王子神社参集殿(2F)

2018年、経済産業省がデジタルトランスフォーメーション(以下…DX)についてのガイドラインを策定しました。しかし当時は誰もDXと言うものに関心がなく、一部のデジタルオタクが騒いだに過ぎませんでした。

それから一年後に、新型コロナウイルスのパンデミックによって、奇しくも人々は、リモートワークやZOOMを余儀なくされる状況になりました。これで日本もDXの時代に本格的に突入するかと思われましたが、残念ながら2020年の12月の調査で、9割以上の企業はDXと呼べるレベルに達していないと結論付けられています。

リモートワークやZOOMなどが普及したにも関わらず、なぜDXの普及率が1割未満なのでしょう。その理由は、我々がDX時代に適応した意識変化を起こして

いないからだと推測されます。

ITと言うのは、リアルに存在するビジネスやサービスを、より便利にするために進化してきました。発想の原点が「リアル」にあるという事です。これに対してDXは、発想の原点が「バーチャル」にあるのです。

署名捺印ひとつとってもそうです。せつかくリモートワークを始めても、上司の署名捺印のために出社すると言う馬鹿げた事態が起こっていたのではないのでしょうか。DXを実践しているのであれば、デジタル署名、デジタル捺印が当たり前となっているでしょう。が現実はそのようになっていません。

東洋には古くから色即是空、空即是色と言う考え方があります。これは、リアルがバーチャルへ、バーチャルがリアルへと、変幻自在な様を意味しています。この変幻自在こそが、トランスフォーメーションといえるのです。

人々が、本当の意味でDXを理解したとき、この世は色即是空、空即是色となって、IT大きな意識の変化を呼び起こします。IT

はビジネスやサービスの世界ではなく、意識や感情の世界へと広がり進化し続けています。その原点は、リアルの世界ではなく、バーチャルの世界へと移り変わっています。

しかし、この変化は表面からでは見て取ることはできません。まさに、色即是空、空即是色なのです。

2022年にはDXの大波がやってきます。気づかぬ人は、知らぬ間に取り残されてしまうかもしれません。DXによる意識の変化に目を向け、この大波に備える必要があります。

サイの広場第1号(1983年6月発行)アーカイブ

印度旅行のみやげ話Ⅱ

藤倉 啓次郎

(前回分)

南印度へ

三月三日私はニューデリー南方二二〇〇軒余りのハイデラバッド

第四六三回関西日本サイ 科学会研究集会報告

コロナが巻き起こすデジタルトランスフォーメーション

を訪れた。

印度第五の大都市である。古い回教徒の町で、町には多数の回教的建物がある。町から一〇軒ほど離れた処に数百年前のゴルゴンダ城の廢墟がある。日光の鳴竜と同様拍手すると天井で音響を發する建物がある。

町からここに来る途中、昔の王達の立派な回教建物式墓が数ヶ所に見られた。墓の莊嚴さが死者のあの世の幸福を保証する訳でもないだろうが。むしろつわ者どもの夢のあと之感を起こさせる。

この町の博物館は見る価値があるらしいので訪ねたところ、生憎と金曜日で回教方式で休館だったのは残念だった。

この町には一泊したがホテルの名はナーガルジュナという。この名は仏教の中論哲学を説き、大乘仏教八宗の祖とも称され、また般若波羅蜜多とも縁深い偉大なる仏教僧・竜樹菩薩の印度原名である。

(今回ここから続きます)

この町から南々東一五〇軒の処にナーガルジュナ湖があるが、その辺が竜樹菩薩の生地らしくまた遺跡もあるようだ。それが予め分

っていたら、私はここでもう一泊してその遺跡をお参りするのだった。

三月四日夜予定より二時間遅れの飛行機でハイデラバウドからバンガロールに向った。到着は午後十時頃。幸いにも旅行会社員の出迎えがあつて無事ホテルに迎えたが、途中夜目にも美しい町と感じた。ここは英国が統治中につくった庭園をもつた建物や公園や並木の多い町である。州政府がある。

この町にブルテンプルというお寺がある。巨大な石で造つた牛像が本尊様で、本物の牛よりも大きそうである。参詣して乞食の歓迎を受けた。

泊つたホテルのロビーに、現代最高の超能力聖者サイババの写真が掲げてあるのでフロントの人達に尋ねたら、サイババの信者だというホテル売店の主人を紹介してくれた。サイババの処へ行きたいなら案内することだった。住所だけをきいておいた。バンガロールの北方約二〇〇軒のアラントパールに本拠があり、またここバンガロールから二五軒の地点にアシユラム(道場)があるとの話だった。

三月五日午後、バンガロールの南西約一三〇軒のマイソールにバスで行く。途中バスは椰子の実を売る店の前で一時停留する。その間乗客は椰子の実の一端を切落したのを買求めてその中の水を呑む、私も呑んだが、暑い最中なので誠に甘露の味がした。

このバス路線は広大な平泉の中の簡易舗装道路を走る。まばらな樹木はあるが密林は全くない。マイソールの近くには桑畑や米田らしいのが見えたが、何か日本の土地に会つたような親しみを覚えた。

マイソールは昔マイソール王国の王様が造つた町だそうだが、大変奇麗な町である。附近には養蚕業や機械工場が多いらしい。

町から一〇軒ほど離れた処にチャムンデイヒルがありそこに大きな回教寺院があり、多くの参拝者を集めている。又この丘の上に豪華なホテルもあるがもとは王宮だったという。

町の中央にマハラジャ宮殿と称する豪華な建物がある。宮殿二階の天井には立派な絵画が画かれている。フランスのヴェルサイユ宮殿とは何れが先輩格になるのだろうか。日曜日の夜には一時間ほどこ

の宮殿とその周囲の外壁に全面的イルミネーションを施すのだが、その光景はすばらしい。私は幸いにもこの光景に接することができた。

この辺で産する絹織物は日本産よりも上質で安いそうだ。私は日本へのお土産に少々買求めた。しかしこの町で、コダックフィルムを買ったら東京での二倍以上の値段だった。

このホテルでは久し振りにバスにお湯を満してタツプリと身体を浸してよい気持になった。またここで三人の日本入技術指導者に会つてこれまた久し振りに日本語を自由に話せたのも楽しい想出でもある。

マイソールやバンガロールはデカン高原と称する海拔七〇〇米の地帯にあるのだが、高原といつても日本の高原の感じはしない。余りにも広い地域であり緑も少いからである。また北緯一二度という南方だから夏の感じがする。マイソールでは洋服の上衣を着ている人はいない。

ニューデリーに戻る

マイソールに二泊して三月七日の午後、バスでバンガロールに行き、そこから飛行機でニューデリーに戻った。

三月八日の晩にはアニール先生の娘むこのヴィジャイさん（大学の英語教師）の招待を受け同氏の家で夕食をいただいた。

翌九日ヴィジャイさんはオートバイの後に私を乗せニューデリー市内を案内してくれた。これは極めて有効な観光であった。その中にはネールの墓地、ニューデリー大学、新スタジアム（競技場、収容人員一〇万人）などがあるが、何れも狭い日本では考えられないような広大な敷地をもっているのには驚く。

また印度で製作した映画も見せて貰った。また私は別の日一人で印度映画を見たがなかなか勉強になった。印度の裕福階級の生活もおよそ想像できた。われわれの到底及ばない高い生活のようであり、貧富の差の大きさも一層感じられた。一流映画館で日本金一〇〇円位で見られるのは安い。初めヴィジャイ氏は映画ガンジーを見ないかと勧めたのだが、私は印度産を所望した。映画ガンジ

ーは東京で四月になってから見た。ガンジーの精神的偉大さには誠に感動させられた。私は一昨年印度に行った時、印度には精神的偉人が多いのになぜ後進国になっているのかと、国立教育研究所長に質問したところ、それは長い間の英国支配により発展を阻害されたからだと答であった。今度映画ガンジーを見てその意味もよく諒解できた。

印度の新聞に一九九〇年頃には印度に縁がなくなる危険があると警告記事がのっているのを読んだ。印度は無理して日本やアメリカを真似することはないだろう。糸川英夫先生は「第三の道」で印度はエントロピーの観点からすれば先進国である。私はこの本をアニール先生に差上げた。先生の息子さんは日本語が達者だから何れ理解していただけるだろうと思っている。

日本へ帰る

三月十二日早朝まだ暗い中をアニール先生の見送りを受けて、私は東京へ向けてニューデリーを出発した。アニール先生を初め多く

の人達に感謝しつつ、また印度の秩序ある発展を願いながら。

東京へ戻って一先づホッとしたが、その後も旅行のあと始末が続いている。

ゴーピ・クリシエナ師の教えを広めること。般若波羅蜜多女神の存在を周知すること。ゴーピ師を日本へ招待することなどと私の勧めもまだ続くだろう。（一九八三年四月三〇日）

ゴーピ・クリシエナ師に対する私の質問とそれについての師のお答えを次に紹介します。

私 悟り (Enlightenment) ということは真実の実在世界を体験することではないか。

師 正にその通りである。われわれが普通に経験している世界は五感によって生じた世界である。五感には心によって演出されている。

その結果がわれわれが普通に見る世界である。悟りに入れば意識に直面する。それが真実の世界である。けれどもわれわれの心は物質的な力に反応して普通の世界を現出するのである。悟りにおける高

い意識状態では、感覚は外的世界から切断されて意識の内部世界だけが見られる。その時には物質世界は消えさり実在だけが残るのである。

私 自分自身を知る方法はどうか。瞑想によるのか。

師 その通り瞑想による。それは神でも月でも花でもよい。何か一点の的に心を集中するのだ。それを継続するとしまいにはその的だけが意識に残り外部世界は消えてしまう。次にはその的も消え去り意識だけが残る。そして自分ひとりになる。ここで自分自身の深い自己を知ることになる。それがまた実在であり意識である。

私 自分自身を知ることと悟りとは相違があるか。

師 それは全く同じことである。悟りとは真の自分自身を知ることでもある。

普通われわれは、太陽を見たり月を見たり山を見たり木を見たりして、これが太陽だ月だという。しかしわれわれ自身は何かとなる

と分からなくなる。われわれは何か、われわれは何処から来たのか、何処へ行くのか、何のために生きているのか分からない。これ等の問題にどう答えてよいか分からない。ミステリーに迷い込んでしまう。

正しい瞑想によって悟りに入るとわれわれの領域から現実世界が後退して見えなくなる。そして不思議なことに自分自身が或は荒野の如く或は芝生の如く或は大海の如く広がるのが分かる。すると今まで自分だと思っていたものが自分ではない。自分は何か他のものであると感ずる。それは丁度夢みる者が夢の中で森だ川だ人間だと見えていたのが、朝目をさまして目を開いて、自分は夢みていた。あの人間、あの森あの川は夢だった。そこには自分はいなかった。自分の父も自分の家も自分の兄弟も覚えていないからである。夢の中では相手側のことしか分からない。

これと同様で、瞑想によって覚醒すると、われわれが本物と考えているこの世界は夢にすぎず、自分は今までと全く違った何物かであるというようになる。そうして別世界の地球に、別の生命に、別

の存在に目が醒める。

われわれは意識の小単位でなく、また小さい個人でもなく、宇宙そのものとなる。そして太陽と共にあり、月と共にあり、地球と共にあり、われわれが見える宇宙のすべては自分の一部である。このようにわれわれは単なる個人ではないのである。

私 師の体験した神秘的な世界について出来るだけ詳しく説明していただきたい。

師 親愛なる友よ、答えよう。神秘的な世界というけれど私にとってはいつものいつもその有様なのである。

四十五年前に私が覚醒して以来、天の恩寵により私は徐々にしかも確実に、光明の中で食べ、呼吸し、眠るようになった。私は常に光の世界にあり、私の中も外も光である。

私は浮揚しているように見える。私の身体は風船とそれを地球につなぐ細長い紐を想像してみよう。私自身の意識は空中に浮び、また何処までも広がる風船のように、私は感じる。また私は細い紐

でこの地球につながれているようでもあり、またその紐が私自身でもあるようである。私はまた雲の中にあり空中にある宇宙的存在であるとも感じる。

私の心は四十五年前とは違っている。いま私は光の海として生きている。その中で私のエゴは一つの木片のようにあちこちと浮動するようにも感じる。また私はある目標に向かって高く高く昇りつつある。しかしそれは私の身体でもなく、感覚でもなく、精神でもない。それは宇宙におけるすべてである。

一九三七年に私が初めて目覚めた時、光の放射線が私の背骨を下から上へと昇り脳に達したと感じた。そしてその放射線と共に私はどんどん拡がりどんどん大きくなるように感じた。しかし今はそれが神秘的物語のようにも見える。そしてその物語の中で、一九三七年に自分が拡大するのが見えるのである。分かるかね？

私はいま私の意識が宇宙に拡がりつつあるのが分かる。また寝ても醒めても光の楽園にいる。あなたと話して今でも私の目の前には光がある。食べる間も眼前に光

がある。私は地上にありながら光と意識の世界にいる。これは途方もない体験であり、また楽しい体験であり、それは幸福、平安、調和であり、この世にはこれに比すべき何物もない、如何なる王国も快樂もこの内的な王国に比すべきものはない。

これは天の恩恵であり、正しい生活、清らかな生活、瞑想と神を敬うことだけが、徐々にこのレベルに心を向上させることができる。

天国はわれわれの心の内にある。これを私は世界の人たちに気付かせようと努めている。天国は遠くはない。仏陀は離れては、いない。クリシュナもまた去つてはいない。それはわれわれの心の内にある。われわれが知るべきことはこの内なる王国、内なる王国と共にいることである。この内なる天国とわれわれの間には薄いヴェールがありカーテンがある。このカーテンを取除くべきである。一たびこのカーテンを取去ればわれわれはわが王国の内に入り、仏陀の前におり、クリシュナの前にいる。

このカーテンを取去るには正しい生活が必要である。正しい生活、

念写研究における意識と物質

栗田 慶祐

「心」の中で思い浮かべた「文字や絵」を、光を遮断したフィルムの上に写し出す事を、念写といいます。「念写」は今から約110年前の1910年に、世界に先駆けて、福来友吉先生によって発見されました。当時は二元論（形而上学、形而下学）が盛んであり、心の世界と物の世界は別であると考えておりました。形而上学は精神や心（意識）、形而下学は物質や科学技術を意味しております。当時の欧米人の知識人の多くは、キリスト教を信仰しており、キリスト教では、「父と子と精霊」と言われるように、心（精神）はキリストによって与えられた、「信者の心（精神）は、体内にあり、神である。したがって、神を研究する事や分析することは出来ない」と教えていたらしい。

しかし、福来先生は、二元論の間の壁を取り除いて、両者を総合的に研究する。つまり、心と物を統合して、心が体外にある物質に直接に作用して「念写像」を造るのだらう、と説明した。

これは、当時の知識人には受け入れられ難い説明（解釈）であった。永い時間が経過して、量子力学が進歩してきて、心（精神）を科学として扱う様になってきた。例えば、量子脳理論で有名な英国、ロジャー・ペンローズ（1931～現在）は、ノーベル物理学賞を2020年に受賞した。

体外に放出された意識（心）は量子論で説

明することが出来、宇宙・空間に広く拡散している、と説明した。すでに福来先生は、体外にある念写の「念」は願いを持ったエネルギーであり、宇宙空間に広く拡散し充満している、と世界に先駆けて、説いております。

1980年になると、佐々木茂美（動画：佐藤禎花）は、体外の空間に、三日月型の月の念写像の動的な連続撮影に成功した。そして之の解析から福来先生のねん「念」は陰陽サイ spin 対（光子群）であると主張した。つまり112年前に福来先生が発見した「念写」はこの量子で説明する事が出来る、と主張した。

我々が生活している環境の中で、最も安定していて、しかも永久運動をしているのは電子である。この電子は陰性であり、波状（くも状）に存在している。他方肉体の内部には陰性と陽性の電子の流れ（東洋医学）がある。これを例えば「気、サイ」という。呼吸法等を応用して脳波の周波数を下げて変性意識状態（ASC）になり、目を閉じて、非肉眼で物を見る。すると、無意識層から陰陽サイ spin 対（光子群）が放出されて、体外の空間にあるオーブに付着して意識体を形成する。意識体は、意識の指示により、マクロPKとして、スカラー波を介して、共鳴・共振によって、念写像が形成される、と考えている。

良い健康、正しい行ない、良い心と日々の祈りと瞑想と願いが必要である。われわれは常に目の前を神聖にしておくべきである。心が清く、行ないが正しく、考えが健全で、常に神を念ずるならば、われわれは天国に至るだらう。

ヴェールを取去れば天国は目の前に現われる。私は世界の人々がこの秘密を知ることが望んで止まない。それは神の王国に住めることであり、何れの方面もよくなることであり、何れの方面からも愛や善や同情や慈悲が現われることである。憎しみもなく、戦争もなく、悲哀もなく、野望もなく、恨みもなく、そして善、愛、正しい行ない、正しい考え、正しい努力。このようになれば王国はわれらにあり天国もわれらにある。

われらの内にあるこの偉大な神聖な力は、われらの願いを満たすだらうし、そしてわれらは単なる生きものではなく、神聖な存在であり、この地上の何物にも勝る王国を、天はわれらに約束していることを知るだらう。（続く）

B) 「生霊の憑依を指摘！」

あの社長に若い女性の生霊が憑いている！
後にこの社長は自転車で転倒し大怪我して入院。会社も倒産の憂き目に、霊能力者の霊視の通りに女の実名や年齢までピタリ一致。
(生霊の検証)

V 「霊能力の発現は、先天的か？後天的能力か？」

- 1) 先天的能力：遺伝的素質（父母、祖父母など肉親からの遺伝的形質による）
- 2) 先天的能力：宿命的発現（前世からのカルマ）
- 3) 後天的体験：運命的開眼（極度の苦難と突如として神の啓示を受けたケース）
- 4) 奇跡的発現：意識の喪失（病気や事故で死に直面して一時的に意識を失ったケース）
- 5) 神秘的発現：夢見のとき（睡眠中に光や神仏に出会う神秘体験のケース）
- 6) 修行的発現：宗教の修験者たちの難行苦行やイタコ・ユタ・ノロ・ゴミソなどの修行）
- 7) 霊能開発法：現代の能力開発で体得する手法（イメージ・トレーニング、リーディング、チャネリング、アカシックレコード等々）

VI 「能力開発法は？」

太古の人類は自然界の驚異や猛獣などの闘いから本能的に自己の生命の危険から身を守る進化の過程で本能として磨かれた“予知能力”の感性、即ち“超感覚的知覚”が鋭敏になったと考える。だが現代人は通常的生活で命の危機に晒されず、鋭敏な能力などは潜在化したか、退化したかと思える。

旧来の霊能力開発法は、神道や修験道では山に籠り、神人合一の境地に至り「鎮魂帰神法」などにより超能力を自発的に身につけた。仏教では瞑想や荒行による修行や読経により、神通力を得た。

近代では、人の潜在能力による合理的な脳科学や生理心理学理論による開発法が考えられている。

そこで私は瞑想法や自律訓練法、イメージ法などの能力開発法でかつて世界的に流行った「シルバ・マインドコントロール」法を体

験した。さらに発展した「イメージ・トレーニング法」がある。

* 開発法を簡単に紹介すると、

- ①座法（安静にして座る法）
- ②呼吸法（腹式呼吸法など）
- ③弛緩法（自律訓練法と同じような手法）
- ④瞑想法（座禅と同じように変性意識状態へ誘導）
- ⑤イメージ法（イメージへの感覚投入）
- ⑥応用法（様々な実地の応用開発法）

しかし近代科学が発達し、文化的生活の恩恵を浴すようになった現代人は、身を護る本能的な予知能力、いわゆる「超能力」など次第に潜在意識下に封じ込められてしまった。

（おわりに）

科学的に証明できない現象などは認められないとする唯物論的思考の人たちは、これらの存在はあり得ないか、あってはならない現象だと思うだろう。だが私は60年間「心靈現象」を研究している立場から言うと、人間は死後も霊魂として永遠に存続し、いずれ前世のカルマを持って転生するものと考えている。

「生あるものは必ず死す」～真理である。

ゆえに人生は霊的進化を遂げる途上の一里塚に過ぎない。多くの人間は「死んだら一卷の終り」だと思っている。従って霊的にいささかの進歩もせず、幾代も低次元で輪廻転生を繰り返している現代人が多い。

「人生は時いた通りの花が咲く」～真理である。

今生かされている我々が最も大切な学ぶべき「霊的世界」の真相は、富や権力、名誉とかの価値観ではなく、世のため、人のために奉仕し、無償の愛や思いやり、寛容、反省や感謝の心などの価値観を心に浸透するならば、迫り来る大惨禍への警鐘に対する気づきであり、心構えとなろう。

最後に、私は人類の生命や文化に役立つない科学などは無意味だと考えている。

2) 「幽霊が出る！という部屋での撮影実験」

* 事故物件（自殺者）承知で借りた人からの訴え！

オーブが多数飛来した映像と高感度電磁波測定器でも収録後、画像解析を行った。（V解析あり）

3) 「霊媒による憑依ハプニング！」

* 旅先の旅館で霊媒2名が霊に憑依して絶叫！「私達はこの部屋で心中したと男の名を叫ぶ！」＝調査の結果、旅館で男女の心中事件があり逃げた男の名も事実と判明。（憑依のV収録あり）

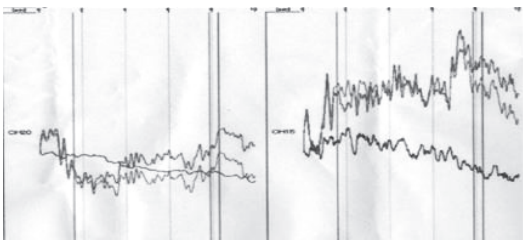
4) 「某大学教授と霊能力者とのTV対決！」

* 霊視が正解なら教授を辞職すると記者会見！「初公開の物質だが何に使うか？分子構造は？」霊視では「航空機の新素材と正解」だが、分子構造までは言えないので「辞職しない」との弁。

5) 「霊能力者の脳内活動を測定する！」

* 能力者Aは被験者Bを霊視した時の脳内活動を「光トポグラフィー」で大脳内の血流測定を行う。

脳内計測（下記の写真）前頭葉のグラフは低下して雑念の無い状態を示している。一方、後頭葉は起伏が大きくイメージがよく現れている。



前頭葉・後頭葉

III 「霊視のメカニズムは？」

- ①目を開けている時は意識を対象物に感覚投入させ、頭に浮かんだ映像と感情が伝わってくる。
- ②目を閉じた時は第3の眼の辺りから脳に直接働きかけ、後頭部の視覚野にイメージ映像が映る。

③イメージ・スクリーンに初め光が見え、次ぎに断片的なモノから次第に全体像が現れる。

④脳内の血流測定における研究では、瞑想の時とか、ある意味ボーッとしているような状態の時、あるいは無意識状態の時に、前頭葉の脳内の血流活動が低下する。その反面、後頭葉の視覚野の血液量は増大する。この現象を“デフォルトモードネットワーク”DMN (Default Mode Network) という。これはインスピレーションとも関係している最新理論である。

“超能力” (Psychics) と一口に言っても、霊的な媒介がある現象と霊魂を介さない現象の違いを区別する必要がある。分かり易く言えば、「霊視」は霊魂を媒介として視るのに対して、「透視」は霊魂とは関わりなく意識を拡大してサイ（気）によって視る現象との違いだと私は考えている。

IV 「霊視ではどう見えるのか？」

世界的に有名な霊能力者のネラ・ジョーンズ（イギリス）は、ロンドン警察で犯人逮捕につながる情報を霊視し、数々の表彰状を授与されている。

その彼女に霊視の視え方を訊いた。「霊視には2つある。直視すると現実の空間にファーとガス状のものが形を成し、人物像が脳裏に浮かび上がる」。もう1つは閉眼の霊視で「人物の容姿や服装、状態、動作などが次々とイメージ映像のように脳裏に浮かぶケースとが感じられる」。

* 次に科学的ではないが、霊視の実地検証で確証を得た事例

A) 「霊視の検証は国内の優れた能力者で試みる！」

初めて訪れた場所（鎌倉で霊視実験を試みる）霊能力者「あの樹木の枝で母親と娘とが首吊り心中している姿が視える」という霊視であった。園内を掃除していた作業人に聞いて確かめると「昨年秋ごろ、正しくあの木の枝に親子が首を吊って心中した！」との証言。（死霊の検証）

隊長からあなたはぜひ生き証人になれと命じられた。多くの将兵たちは戦死。私だけ生き残るなど耐えられないと手榴弾で自爆。だが気がついたら米軍の野戦病院のベッドだった。今も体内に小さな破片が20数個入っている」と告白。

立会人は東工大の宮城音弥教授(心理学)で「島の名は分からなかったが、戦場での激戦の状況は視えていたようだ」との感想を述べた。

*硫黄島戦では1945年2月に米軍が上陸、旧日本軍2万1900人、米軍6821人が戦死。

「心霊現象とは？」

心霊的スピリチュアル(Spiritual)な現象をいう。いわば超常現象の中で、とりわけ霊魂が介在していると考えられる現象である。

「霊能力者とは？」

主に宗教的修行者や霊媒が霊魂を媒介として心霊的能力を発現する人を心霊能力者と呼んでいる。霊魂もある種のエネルギーを発している。

超心理学では特異能力と呼び、一般的に物理的現象に則り心霊とはつながらないサイ(Psychics)現象で、ESPとされる透視、遠隔視、テレパシー、予知、予言等やPKという念力、念動力、念写などと区別している。

「心霊現象」を大別すると、

①「精神的心霊能力」

霊視、霊聴、霊言、異言、精神感応、心霊鑑定、予知、予言、霊査、霊媒、自動書記、憑霊、霊界交信、靈感など。

②「物理的心霊現象」

自動書記、自動書画、物質化現象、物品浮揚、物品引き寄せ、心霊写真など。

③「心霊的治療」

遠隔治療、直接治療、心霊治療、心霊手術、前世療法や除霊、浄霊など。

I 「死者の霊魂は存在するか？」

福島県在住で当時86歳の職能霊能力者Mさん、初対面で「あなたのご先祖が先ほどからここに来ている。母方のご先祖で袴を着た武士」。「証拠は？」と訊くと「家紋が視える」と言い、紙に描いた。「表と裏の家紋をピタリ書いた！」(撮影Vあり)

*因みに、家紋は2万5千数以上もある。

II 「霊能力者を科学機器で測定する」

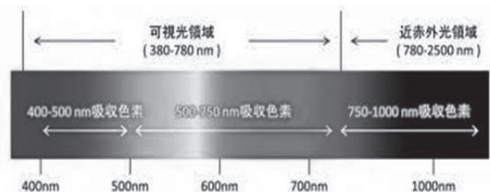
霊能力を近代科学の方法で検証するには、再現性と科学機器による客観的データを必要とする。

私は内外の霊能力者330余人を取材したが、中でも優れた霊能力者(30名)に様々な能力を科学機器で検証を試みた。その一端を記述する。

- ①ポリグラフ(心電図、筋電図、脳波計～主にアルファ波が顕著と認められた)
- ②サーモグラフィ(熱感カメラ～憑依状態で身体の色温度に大きな変化が認められた)
- ③光トポグラフィ(大脳内の血液量の変化測定で前頭葉と後頭葉の視覚イメージ活動で直観との関連性が認められた)
- ④特殊TVカメラ(紫外線、ノーマル、赤外線、遠赤外線～近赤外線カメラのみオーブが撮影可能)
- ⑤各種測定器(低周波、高周波、磁場、磁力計～オーブとラップ音が各機器に反応した)

1) 「招霊実験」

心霊能力者Mさんは故人の霊を呼ぶ「招魂儀式」を行うことが出来るという。そこで前記の特殊TVカメラと電磁波測定器等を準備した。



(結果)オーブが近赤外線領域(750~900nm)で飛来する状態を撮影、ラップ音も収録できた。
*「オーブは故人の霊魂だ」と霊能力者はいう。



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp
公式サイト <http://psi-science.org> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

霊能力について

小林 永尚 (心霊現象研究)

人類の歴史は、火山噴火、地震、津波、台風、洪水、旱魃等々の自然災害や、コレラ、ペスト、天然痘とか、いま流行りの新型コロナといった感染症のパンデミックとの闘い、さらには人が殺し合う戦争まで未だに闘いは絶えることがない。

いわんや今日、自由主義や利己主義が蔓延して、自らの手で自然環境を破壊して己の首を絞めている有様である。万物の霊長といわれる人間は、自分たちの住処(すみか)の地球環境まで破壊して、自然環境と共生している動植物より、果たして人間は霊長と云えるだろうか。

今から50余年前、氷柱下がる酷寒の霊山で滝行に身を晒す行者に出会った。先を視通す眼力は凄まじく、いわゆる卓越した霊能力者でもあった。

行者曰く「いま利己的欲望にとらわれ、人心は乱れ、やがて地球は狂う」さらに「これは天界からの警鐘だ！あらゆる艱難辛苦の戒めによって、勝手な人間の過ちを悔い改めさせているのだと。」

近年、心ある人間は遅まきながら自然環境や太陽や水の恵みに中に生きていく為には、今こそ自らの行為を改めねばならないことに気づき始めた。

いま人類は歴史的大転換期にあると云われている。これからどんな価値観を求める時代になるだろうか？先を視通す力を「ひらめき」とか「インスピレーション」とか別な言い方では「気づき」ともいう、果たして何を

なすべきかに気づくであろう。

新年を迎え、私はこんな句を思い出した。

「正月は冥土の旅の一里塚 めでたくもあり
めでたくもなし」 一休禅師

一休禅師は歳をとることは死が近づくことでもあり、世の無常をあえて説いたものであろう。

生あるものは必ず死す。これは厳然たる事実だ。戦時中に生まれた私は、ましてや生命(いのち)半ばで戦死した人たちを見て、子ども心にも「死んだらどうなるのか?」「霊魂など本当にあるのだろうか?」など知りたかと思っていた。

社会人となりTV局で番組の制作現場に配属され、持ち前の好奇心と探求心が募り、趣味と実益も相まって「超常現象」番組なども制作した。

「黙って座ればどこまで分かるか?」

1968年、TV初の超能力番組を放送した。スタジオには霊能力者5名。登場者を霊視する。

霊能者「海に囲まれた島が見える。辺りに英霊の姿が多く視える」。「太平洋戦争の激戦地だ」。しかし登場者と英霊との関係は分からなかった。

司会者「この方は太平洋戦争の激戦地、硫黄島で最後の生き残り従軍看護婦さんです」

彼女は数奇な体験談を語った。「私は守備